

モルックの紹介その1

林 但

横須賀ではここ数年、モルックとピックルボールを市民の方に提供・紹介できないかと研修統括部を中心に取り組んできています。ピックルボールは体育館などでできるため市内の6つの地区では取り組んでいる、また、個人的に横須賀や湘南・横浜などの会に入って取り組んでいる人も散見されます。また、私の地域では学校開放利用団体の中で、障害ある人と一緒にラリーを楽しみながらコミュニケーションも重視して取り組んでいるピックルボールの会もあります。

本題に入ります、大谷翔平さんに関する本を読んでいる中で、目に留まったのが「大谷のバットはいくら？」(柏書房:著者 熊崎敬氏)です。スポーツを支える道具と人々の物語が書かれており、第1章～第6章まで36の競技と関係する道具について取り上げられています。そこに**明日の人気スポーツは何か?の有力候補に熊崎氏はモルック**を挙げられています。今から30年くらい前に北欧のフィンランドで生まれたモルックは瞬間にヨーロッパ～全世界に広がり20年前からは世界大会も行われているとの事。

モルックとは、一言でいえばモルックという木製ピンを投げて、スキttlとと呼ばれる12本の木製ピンを倒すゲームである。ピンを倒すという意味ではボウリングに似ています。12本のスキttlには1～12までの数字が書かれており、1本しか倒れなかった場合は書かれている数字が得点、複数倒れた場合は倒れた本数が得点で早く50点に到達した方が勝ち、1点でもオーバーすると25点からやりなおし。だんだん倒れて距離が遠くなるとむつかしくなります。**やってみると意外にシンプルで、いつでもどこでも誰でもできる。知的戦略など考える必要もあります。**子供たちは数字に強くなり、お年寄りにも認知症予防になると言われています。

また、用具は安価です、私の故郷は森も多くスポーツ推進委員が自分たちでモルックを作ってしまい毎年11月には市民大会も行っている人気競技だと広報の記事とともに連絡をくれます。



26年6月2日

モルックの紹介その2(室内用)

林 但

屋外でのスポーツはどうしても天候(雨天、熱中症など)に影響され、どうしても制約を受ける。学区行事で何回か体験モルックを行っているが、人気はあるが中止も出てしまう。床にマットなど敷いて行うには敷物の借用や労力など必要になる。「みんなのスポーツ」に室内用があり使っている事例が紹介されたこともあり、試しに室内用を使って先週日曜日の「ニュースポーツ体験会」で行ってみました。

若干軽めであるが、通常と同じルールで行ってみると、初めて行うチームでも50点まで到達。記録他の審判業務を中学生に協力いただき、3チームでの対抗戦であったが盛り上がった。昨年、富士見小学校50周年記念イベントでも、体育振興会として屋外で行いましたが、これからも学区内で屋内用も試していきたいと感じています。

<室内用のメリット> 私が使ってみて感じたこと

- ① 用具が安価、木製に比べ約半値。
- ② マットや人工芝を敷くなど準備などの手間がかからない
- ③ 運搬が楽、軽い
- ④ 床を傷つけない



室内用の例